



ザンビアの北大デーに参加して

システム情報科学専攻 准教授 木村 圭司

今年2月、アフリカのザンビア北部にある国立カッパーベルト大学(CBU)で北海道大学デーが開催され、筆者は北大訪問団の一員としてこの催しに参加した。ルサカでは、国立ザンビア大学(UNZA)や日本大使館などを表敬訪問した。こうした公的行事の合間には、筆者の専門であるGISを研究するUNZAの研究室を単独で訪問し、交流を行った。今回は、その報告を行いたい。

ザンビアは南部アフリカの内陸国であり、首都はルサカである。隣国ジンバブエとの国境にはヴィクトリアの滝があり、世界三大瀑布の一つとして有名である。ザンビアは、日本の約2倍の面積の国土に約1300万人が暮らしているが、この国に在住している日本人は200人ほどと少ない。独立前はイギリスの植民地だったこともあり、公用語は英語である。政治は安定しており、とても治安の良い国である。

北海道大学デーが開催されたキトウェまでは、新千歳空港から成田、香港、ヨハネスバーグを経由してルサカに入り、そこからは車。札幌を出てから25時間の長旅でようやく到着である。南部アフリカの国々に初めて行く人は、あらかじめ黄熱病だけでなく肝炎、破傷風、狂犬病の予防接種も受ける必要があるが、筆者は今回5回目だったこともあり、その大半を省略できた。現地ではマラリア予防薬も毎日飲まなければならないが、最新の予防薬は体への負担が少なく楽であった。

北大からは山口副学長(現総長)、北大ルサカオフィスの奥村所長(獣医学研究科教授)をはじめ、事務方を含めた10名が参加した。CBUでは、北大ルサカオフィスの成澤副所長(当時)と、本研究科の修了生であるNguvulu専任講師が北大訪問団の案内や、北大デーの準備に携わって下さった。CBUではまず、北大とCBUの学術交流協定の調印式に列席した後、学内ツアーに参加した。CBUの

設備の多くは老朽化しているが、これからの可能性を感じられる大学であった。北海道大学デーではCBUのNgoma学長と北大の山口副学長の挨拶の後、奥村所長による北大と奨学金についての説明、Nguvulu専任講師による北大留学経験談があり、水産科学研究院、情報科学研究科、保健科学研究院の紹介が各研究科からの参加者により行われた。

翌日、北大訪問団はルサカまで車で戻った。そして、UNZA内にある北大ルサカオフィスや、JICAの援助による大学教育病院の施設などを見学をした。また、日本大使館の江川大使を表敬訪問した。なお、この様子は大使館のHPからも見ることができる。

空いた時間を使って、筆者は専門分野の研究室を単独で訪問し、共同研究について相談するとともに、両国の多くの人々が互いのことを学ぶ機会を作るための手段を今後考えていくこととなった。

日本から見ると、アフリカのあちこちで内戦が起こっているためアフリカ全体が危険と思われがちであるが、ザンビアは思った以上に安全な国であった。

国際本部・北大ルサカオフィスでは、今年度も年明けにボツワナ、南アフリカ共和国で北海道大学デーを開催予定と聞いている。南部アフリカの情報科学の現状に興味のある人は、ぜひ参加していただきたい。



第2回 北大ー仁川大学ーハルビン工業大学 ジョイントワークショップを開催

平成25年7月22日（月）から24日（水）、大学院情報科学研究科を会場として「第2回北大ー仁川大学ーハルビン工業大学ジョイントワークショップ（The Second International Joint Workshop on Intelligent Convergence Technology）」が開催されました。昨年の6月に第1回目のワークショップが仁川大学で開催されており、本年は、本学の情報科学研究科が主催となり、工学研究院の協力を得て開催したものです。仁川大学から27名の学生と教員が、ハルビン工業大学からは、11名の学生と教員が来訪し、昨年より大人数での開催となりました。仁川大学は、本年1月に韓国では数少ない国立大学に昇格したこともあって、国際的研究分野への拡充を目指して、海外の大学との実質的な連携強化を目指しているようです。オープニング後には、昨年同様、各大学の工学教育に関する特徴を紹介する講演が行われ、今後の大学間交流を促進するため、お互いに参考となるような議論が活発に行われました。次いで、各教員が実施している研究内容の発表がオーラルセッションとして実施されました。研究論文発表件数が32件となり、前回の16件から倍増しました。このため、情報通信分野に関するセッションとハードウエアに関するセッションとに分け、2つの会場でパラレルの実施となりました。特に、交流する技術テーマを昨年の中心テーマであった情報・通信分野に加え、エレクトロニクス、ロボティクス、エネルギー分野、材料分野と拡張したことで、広範な技術討論が行われました。ワークショップへの参加者数、発表者数の増加と研究分野の拡大により、今後の共同研究など、実質的な交流拡大につながるものと期待しております。

また、学生間の交流を活性化するための、学生のポスターセッションも用意したことで、学生、教員を問わず、人的な交流ができたものと考えられます。第3回ジョイントワークショップは、来年7月上旬に、ハルビン工業大学 Weihai キャンパスで開催される予定です。

（副研究科長 高橋 庸夫）



NHK Eテレ「すいえんサー」の特別シリーズ すいえんサーに出演して

1月22日（火）と4月18日（木）、NHK Eテレの科学（？）エンターテインメント番組「すいえんサー」の特別シリーズ、「北海道大学からの挑戦状！」の収録に参加しました。このシリーズは大学生と「すいえんサーガールズ」というティーンモデル達がある科学的（？）な課題で勝負するもので、より良い結果を出せたほうが勝ち、というわけです。ただのモデルのはずですが、彼女らは北大に来るまで、東大に2勝1敗、京大に1勝という驚くべき成績です。

・すいえんサーガールズとの初対決

1月22日（火）の競技内容は「ピンポンフォール対決」。A3の紙1枚で作った構造物の上からピンポン球を転がして、地面に着くまでの時間の長さを競います。公開収録ということで、たくさんのお客さんの前で製作と競技をすることとなり、製作時間が1時間。紙の構造物を作るだけなので長い時間だと思ったのですが、やってみると想像以上に短い。北大生チームは30分を議論に費やし、やっつけ仕事で構造物を製作しました。この間、すいえんサーガールズチームはどんどん作製し、出来上がりも北大生チームと比べ整っていました。両チームの基本的な構造は変わらないのですが、質の違いを見せつけられました。私はすいえんサーガールズチームの構造物を見た瞬間、「負けたな」と心の中で思った程です。しかし、競技を開始すると、すいえんサーガールズは4人全員失敗（構造物の途中でピンポン玉が停止）。対して北大生は4人中1人成功と、ルール上辛くも勝利する結果となりました。この結果は出演者や関係者、視聴者に不満を残す形となり、「北海道大学からの挑戦状！リターンズ！！」が開催される運びとなりました。

・すいえんサーガールズとの再戦

前回の不完全燃焼となった勝負を、完全なものとするため、4月18日（木）に北大vsすいえんサーガールズの再戦が行われました。競技内容は「ピンポンリレー対決」。前回のルールプラス、最初に転がしたピンポン玉は構造物上にとどめつつピンポン玉をリレーさせなければならない、ピンポン玉をスタートさせる位置の高さは50cm以上という条件をつけたものです。前回より難易度が高いため、製作時間は5時間にも及びました。ただ、これは北大生チームに有利でありまして、一瞬の閃きよりも、考える時間や改善作業の時間が重要となるからです。北大生チームは5時間をフルに使い、4人で分担、話し合いながら全力で作業しました。4人中3人が2回目だったこともあり、各自が案を出して作業し、とても良いチームワークで作成出来たと思いま

す。結果として、北大生チームがスイエンサーガールズに勝利しました。この勝利はチームワークを活かしたことや前回の失敗を踏まえたこともあり、前回よりも良い出来の構造物が出来上がったことにあると思います。

・最後に

このような貴重な経験を与えて下さった方々には大変感謝しております。また、協力して頂きました方々も本当にありがとうございました。

9月28日（土）、9月29日（日）にNHKサイエンススタジアム2013にて、スイエンサー全国大会が行われます。今まで大学からの挑戦状シリーズに登場した、東大・京大・北大・東北大・スイエンサーガールズとの総当り戦です。こちらでも、北大ならではのチームワークや閃きを活かして頑張りたいと思います。

（情報エレクトロニクス専攻知能システム学研究室
修士課程1年 染谷 楨人）



平成25年度北榆会母校交流会報告

平成25年9月27日（金）、情報科学研究科と情報科学研究科に関連する学科の同窓会である北榆会が母校交流会を行いました。

最初に各研究室によるポスター展示を行いました。発表を担当する学生とOB・OGが熱心に研究内容を議論する姿が見られました。

次に、本研究科の栗原正仁研究科長から、情報科学研究科と情報エレクトロニクス学科の改組（案）に関する報告があり、続いて札幌整形循環器病院副院長 太田英敏博士から、医工連携の最近の話題と日本における課題（消化器領域を中心に）について講演がありました。

引き続き、研究室見学が行われ、最近の研究成果について説明を受けました。

最後に、工学部食堂に場所を移し、立食パーティ形式で懇親会を行いました。懇親会の中でポスター発表の表彰が行われ、情報エレクトロニクス専攻ナノエレクトロニクス研究室が最優秀ポスター賞に、メディアネットワーク専攻メディアダイナミクス研究室とシステム情報科学専攻システム共創情報学研

究室が優秀ポスター賞にOB・OGによる投票の結果選ばれ、表彰されました。

北榆会、および北榆会母校交流会の詳細は、北榆会ホームページをご覧ください。

<http://www.ist.hokudai.ac.jp/hokuyu-kai/>

（教育企画室長 北 裕幸）

平成26年度大学院入学試験

平成26年度北海道大学大学院情報科学研究科博士後期課程ならびに修士課程の入学試験が、8月22日（木）、23日（金）の両日実施されました。入試結果は9月2日（月）に発表され、下表の208名（博士後期課程33名、修士課程175名）が合格しました。

また、同時に行われた平成25年10月入学の外国人留学生及び社会人を対象とする入試では、修士課程4名（コンピュータサイエンス専攻、情報エレクトロニクス専攻、メディアネットワーク専攻）、博士後期課程5名（情報エレクトロニクス専攻、メディアネットワーク専攻）、社会人入学4名（複合情報学専攻、コンピュータサイエンス専攻、メディアネットワーク専攻、システム情報科学専攻）が合格しました。

なお、今後専攻別に二次募集を行うかどうかが決まります。二次募集を行う場合の日程は次の通りです（詳細は募集要項でお確かめ願います）。

平成25年11月上旬 募集要項配布開始

平成25年12月下旬 出願資格予備審査申請期間

平成26年1月下旬 願書受理

平成26年2月20日（木）～21日（金） 入学試験

平成26年3月13日（木） 合格発表日

平成26年度専攻別合格者数

専攻	定員	合格者数
複合情報学	24	31
	4	3
コンピュータサイエンス	24	18
	8	4
情報エレクトロニクス	39	35
	8	8
生命人間情報科学	33	26
	6	4
メディアネットワーク	30	30
	8	9
システム情報科学	27	35
	8	5
計	177	175[4]
	42	33[6]

・上段：修士課程、下段：博士後期課程

・[]：留学生（内数）

【人事異動】

[助教]

(辞職) 平成25年8月15日	
NEWTON MARCUS CHRISTIAN	生命人間情報科学専攻 (協) 生体機能工学講座

[特任准教授]

(採用) 平成25年7月1日	
齊 培 恒	メディアネットワーク専攻 情報通信システム学講座 (ローム株式会社 LSI商品開発本部海外ビジネス課長から)

[客員准教授]

(採用) 平成25年7月1日	
澁 谷 久 恵	システム情報科学専攻 (連) システム展開情報学講座 (株式会社日立製作所横浜研究所主任研究員(現職))

[事務]

(転出) 平成25年7月1日	
市 川 智 章	会計担当主任 (北キャンパス合同事務部研究協力担当へ)
(転入) 平成25年7月1日	
昔 農 尚 子	会計担当 (法学研究科・法学部事務職員 スラブ研究センター事務担当から)

【受賞】

[教員]

2013年9月18日	湊 真一
コンピュータサイエンス専攻 教授	
一般社団法人電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ Fundamentals Review ベストオーサー賞 「BDD/ZDDを基盤とする離散構造と演算処理系の最近の展開」 電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ機関誌 Fundamentals Review 第4巻第3号 (平成23年1月)	

[学生]

2013年6月6日	和佐 州洋 ¹⁾ 、有村 博紀 ²⁾ (他2名)
1)コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程1年、 2)同専攻 教授	
一般社団法人人工知能学会 研究会優秀賞 「超グラフ中に含まれる非巡回部分超グラフの効率よい列挙」	
2013年8月13日	Yulai Xie (謝 雨来)
システム情報科学専攻 博士後期課程3年	
Society of CAD/CAM Engineers Best Presentation Award "Variational hand modeling based on imagebased 3D model reconstruction"	

2013年8月13日	松山 雄介
システム情報科学専攻 修士課程2年	
公益社団法人 精密工学会北海道支部 2013年度 精密工学会北海道支部 優秀プレゼンテーション賞 「大規模環境の統合点群モデルの自動生成 (第2報)」	
2013年8月23日	幸若 完壮 ¹⁾ 、工藤 峰一 ²⁾ 、 今井 英幸 ³⁾
1)コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程2年、 2)同専攻 教授、3)同専攻 教授	
The World Congress on Engineering Best Student Paper Award of The 2013 International Conference of Computational Statistics and Data Engineering "Structural Change Point Detection for Evolutional Networks (進化的ネットワークに対する構造変化点検出)"	
2013年8月26日	堀 祐臣
情報エレクトロニクス専攻 博士後期課程3年	
10th International Conference on Nitride Semiconductors (ICNS) Outstanding Poster Presentation Award " Characterization and Control of MOS Interface States in GaN-based MOS-HEMTs Using Al ₂ O ₃ Gate Insulator (Al ₂ O ₃ ゲート絶縁膜を用いた窒化ガリウム系 MOS-HEMTにおけるMOS界面準位の評価と制御)"	
2013年8月28日	伊藤 竜誠
システム情報科学専攻 修士課程2年	
一般社団法人電気学会 YPC奨励賞およびYPC優秀発表賞 「素線絶縁を施していないNbTi超電導コイル」	
2013年9月3日	伊藤 竜誠
システム情報科学専攻 修士課程2年	
公益社団法人 低温工学・超電導学会 若手セミナー若手奨励賞 「素線絶縁を施していないNbTi超電導コイル」	

※職名・学年・所属は受賞時

新教員紹介

1. 最終学歴および学位、2. 前職、3. 専門分野



齊 培恒 特任准教授

メディアネットワーク専攻 情報通信システム学講座

- 平成23年北海道大学大学院情報科学研究科メディアネットワーク専攻、博士(工学)
- ローム株式会社 LSI商品開発本部 海外ビジネス 課長
- 無線通信、デジタル放送、暗号理論

IST NEWS No.35 平成25年10月31日発行

発行：北海道大学大学院情報科学研究科 広報・情報室
(編集担当：喜田 拓也・野口 聡・久保 吉史・大塚 尚広)



情報科学研究科ホームページ

<http://www.ist.hokudai.ac.jp/>

